群馬県立高崎高等学校（全日制）学校評価一覧表②（平成31年度版）

（様式2）

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ ３Ｆ精神に根ざす活力ある高高生を育成し、活気にあふれた特色ある学校づくりに努めていますか。 (全体・生徒部)	1 生活規律の確立	① 各学期１回挨拶週間を設定。 ② 移動教室や集会の動き出しを早め、チャイムスタートを徹底。 ③ 全校生徒のフィルタリングの徹底・非公式サイトの未登録。	B A B	A A B	A A B	職員による登校時挨拶運動を実施することに加え、生徒と共に実施することも有意義であった。ＳＮＳの利用については、ＴＰＯをわきまえる行動を状況に応じて指導した。	・スマホの過度の利用は、読書や学習の時間を奪うので、有効な指導を継続することが大切である。	職員の意識が生徒の意識につながることから全職員をあげて挨拶運動を実施していきたい。ＳＮＳは、状況に応じて適宜指導していきたい。
	2 交通安全の推進	④ 雨合羽着用率１００％。 ⑤ 交通事故・苦情０件。 ⑥ 自転車の盗難・いたずら・無施錠０件。	A B B	A A A	A A A	机上や現場での交通指導を実施していくことで、年度当初に比べ問題点が減った。理解していても危険予測能力が低い生徒が多い。	・交通安全指導で教職員が街頭指導している姿をよく見かける。昔と比べると生徒の交通マナーはよくなっている。	年度当初にルールとマナーを効果的な方法で伝え、年間を通して粘り強く指導していきたい。
	3 教育相談業務の充実	⑦ 毎週教育相談・生徒部会議の実施。 ⑧ 教育相談係を中心にチームとして協力し、教員一人での抱え込み防止。 ⑨ 生徒・保護者がＳＣを有効活用するためのマネジメントを教育相談係を中心に管理。	A A A	A A A	A A A	定期的な会議での情報共有や教育相談係とＳＣの連携が上手く機能しているので、問題点について早期対応に努める事が出来た。	・学校が楽しいという価値観を持たせることも大切である。 ・不登校傾向を持つ生徒にも、学校は誠実に対応してくれている。	今年度同様に情報共有の機会を大切にして、早期対応に努めたい。
	4 生徒会活動の充実	⑩ 定期戦アウェイでの第７３回大会の勝利と翠巒祭の成功。 ⑪ 部活動加入率の増加と高校総体優勝。 年１回以上の地域の清掃活動と全校生徒による古紙回収。	A B	A B	A B	生徒会・実行委員・部長など各部署のリーダーを育て、主体的な取り組みが出来るように心がけさせた。前年からの引き継ぎを元に提案してきたものに対して助言をした。	・学級減に伴って教員数が減る中で、部活動が衰退しないようにうまくやってもらいたい。 ・部活動の指導に対しては外部指導者の活用も有効である。	年々、主体性が弱まっていると感じられるところもあるため、リーダーを育てることに重点を置いて活性化に努めたい。
Ⅱ 健康と安全への理解を深め、学習環境と教育設備の整備に努めていますか。 （保健環境部・事務部）	5 健康な身体と健全な精神を育成するため、自主的・積極的に心身を鍛えることができる資質・能力を養う。	⑫ 「保健だより」を定期的に発行。 ⑬ 家庭に向けて体調不良時の受診の呼びかけを強化。	A A	A A	A A	・定期的に健康関連情報を発信できた。 ・家庭に向けて適宜情報発信を行い、注意喚起を促すことができた。	－	・保健関係について最新の情報収集に務めながら、適宜発信する。
	6 健康的で落ち着いた集団生活を維持するために、安全で衛生的、かつ快適な学習環境を整備する。	⑭ 保健委員による校内巡視を毎月実施。 ⑮ 学習環境が快適であると感じている生徒が８０％以上。	B A	B A	B A	・定期的に校内巡視を行った。 ・快適な学習環境への評価は86％であった。	・昔に比べると、生徒の生活態度は向上しているし、教室周りもきれいだし、頼もしく感じている。	・引き続き校内巡視を行い、学習環境の改善に努める。
	7 校内美化の推進及びゴミの分別・減量を徹底し、リサイクル活動に取り組み、省エネエコ活動を推進する。	⑯ ゴミの分別の徹底。	B	B	B	・ゴミステーションと駐車場脇コンテナへの分別を明確にした。生徒のゴミ分別意識は91％（昨年は89％）だった。昨年より若干向上した。	－	・整美委員会を有効に活用し、新聞発行など様々の方策を講じて、生徒の分別意識を向上させる。
	8 防災意識を高める。	⑰ 訓練時の行動に関する生徒の自己評価が９０％以上。	A	A	A	・防災訓練時に的確な行動をとれた生徒が95％で、昨年よりも向上した。	－	・想定される災害のバリエーションを増やし計画に反映させる。
Ⅲ ＰＴＡ・同窓会・地域と連携し、本校の教育活動を発展させていますか。 （広報渉外部）	9 ＰＴＡ・同窓会・地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。	⑱ ＰＴＡ総会の出席率が５０％超える。	A	A	A	ＰＴＡ総会の参加率は、昨年度の46.2％から49.7％と大きく増加し、目標の50％をほぼ達成することができた。	・2020年はウィンブルドン4位の実績を持つOB清水善三さんの入賞から100年の節目なので、同窓会と連携して母校で何かできないか。	来年度は、ＰＴＡ総会の出席率をさらに60％になるよう、保護者が積極的に参加するような工夫をこらしたい。
	１０．情報管理を徹底した上で、情報モラルについて機会がある毎に職員に情報を提供し、セキュリティ意識の向上を図るとともに、必要な情報は、Webページ等を利用し積極的に発信する。	⑲ 職員の情報セキュリティ意識の向上。 ⑳ Webページ随時更新。	A A	A A	A A	成績処理は仮想PC上で行うことと、管理職によるUSBメモリ管理により、セュリティは向上している。 緊急時に保護者が管理職や主任へ連絡できるページを追加する方法について、技術的な点はクリアした。	－	ＵＳＢ利用から、メールやクラウド上の保存領域の利用への移行を促進すること。
Ⅳ 質が高く、内容が豊かな「力のつく授業」を展開し、学力を向上させていますか。 （教務部）	１１ 適切に授業時間を確保し、力のつく教育課程を編	㉑ 臨時時間割の、行事前の日程に余裕をもった提示と、入替えの、年間行事予定表への記載	B	B	B	職員アンケートでは授業時間確保に努力していると感じるが、強く感じているとある程度感じているで９８％であった。	－	授業カットや授業変更を有効に実施し、１００％を目指したい。
	12 校内諸活動計画の調整を行う。	㉒ 調整ミスによる直前の計画変更や、当日の中止といった事態を起こさないこと。	A	A	A	各分掌・各学年との連絡は継続して密にしている。	－	授業時間を適切に管理していきたい。
	１３ 教員個々及び集団としての教科指導力の向上と授業改善を推進する。	㉓ 年２回以上の実施。 ㉔ 新しいシラバスを評価する生徒が80％以上。	B B	B B	B B	授業改善については教科間の授業参観、及び教科を超えた授業参観を行い、授業研究を実施した。	・先生方が生き生きと授業されている様子はから、教師の教えたい気持ちが伝わってくるし、教材研究への向上心が窺える。	さらに研修を進めるために求められるテーマを研究したい。シラバスは、年々、内容がグレードアップされ、生徒、職員もさらに活用したい。
	１４ 成績処理・各種教務関係書類作成等の事務を正確かつ適正に実行する。	㉕ 教務部の係ごとの打合せ回数を増やすこと。	B	B	B	教務関係の業務分担を確認し、書類等のチェック機能を強化している。	－	広報渉外部と連携し、コンピュータの新システムの本格実施に対応したい。
Ⅴ ３年間を見通したキャリア教育を推進し、進路目標を達成した上で、自己実現を図っていますか。 （進路部）	１５ 高い志を育成し、学ぶ意味を知り、自ら学ぶ生徒を育てる。	㉖ 学習時間の向上 部で活動中：平日平均学習時間　最低でも2.5時間 部活引退後：平日平均学習時間　最低でも3.5時間 ㉗ １年次：志（どのように社会貢献をするか）と夢（何をやりたいか）の明確化 ２年次：学部・学科の明確化と志望大学の決定 ３年次：受験大学の確定 ㉘ 志と夢、志望大・学部・学科の明確化。 ㉙ 志、夢を叶えるための具体的道筋の理解。	B A A A	A A A A	A A A A	授業研修・教科内研修に加え、授業内容の精選と学習方法の指導を徹底した結果、学習時間の増加が見られた。 ３年間を見通したキャリア教育（ＳＳＨ活動・部活動・各種行事など学校生活のすべて）と各種面談をとおして、生徒の社会意識が変容してきた。	・「先輩教えてください！」は生徒の志を育てたり、ＰＤＣＡサイクルを学ぶよい機会にもなるので、充実した形で継続してもらいたい。	・志の育成に力を注ぐと共に、強い心を持った生徒の育成に務める。と共に、力の付く授業の実施に今後も務めていく。 ・キャリア教育やＳＳＨ活動との連携により進学実績を上げていく。 ・社会・大学との連携を深め、校外での研修にも積極的に参加する。 ・各種面談の実施
	１６ 学力・進学実績の向上を達成する。	㉚ 授業観察・授業研修と生徒によるアンケートの活用 ㉛ 模試の成績向上 １年次：英数国総合ベネッセ偏差値　６５ ２年次：英数国総合ベネッセ偏差値　６５ ３年次：英数国総合ベネッセ偏差値　６２ ㉜ 教師・生徒の信頼関係の向上。	A A A	A A A	A A A	授業観察・授業研修と授業アンケートのフィードバックにより授業の質は高まり、シラバスの改善によりやるべきことが明確になったので、生徒の模試成績は向上した。また、授業力向上により、生徒との信頼関係も構築された。	・先生方の授業改善への熱心な取り組みで、生徒の学力も伸びているし、保護者も感謝している。それがアンケート結果にもつながっていると思う。	・引き続き、授業アンケートのフィードバックと教科研修による教科指導力の向上に務める。 ・緻密な現状分析による教育の質の向上に務める。 ・きめ細かい面談の実施。
Ⅵ ＳＳＨ事業を効果的に運営して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を育成していますか。 （ＳＳＨ部）	１７ 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度の基盤を主として課題研究Ⅰの活動を通して育成する。	㉝ 職員間で具体的に育成すべき生徒像を共有できている状態で課題研究Ⅰの指導に職員があたっている。 ㉞ 1学年の７０％が１学年の課題研究終了時にPDCAサイクルを1巡できている。	A B	A A	A A	1学年においては課題研究の指導方法を共有する時間を時間割の中で確保できた。また、2単位で実施する課題研究のカリキュラムが完成した。その結果、プロジェクトチームをつくり、予備調査から本調査へと研究を進めることができたグループが８４％に達した。	・SSH事業を効果的に進めるために、職員にも生徒にも学校教育目標や重点目標等、学校の方針を示しているのは評価できる。	・引き続き、1学年で完成したカリキュラムの継続とさらなる課題発見及び課題解決能力育成のためのさらなる教員の指導力の質的向上が必要である。 ・2学年全体で実施する課題研究の前項体制の構築が課題である。
	１８ 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を主として課題研究ⅡⅢの活動を通して深化させる。	㉟ SSHクラスの８０％が3学年の課題研究終了時にPDCAサイクルを1巡できている。 ㊱ 統計学や数理モデルの考え方を活用した課題研究を行う生徒が複数グループ現れている。	A B	B A	B A	数理モデルの考え方として独立変数と従属変数を意識した課題研究は定着してきた。展望までは抱くことができたグループが7割を超えた。	・ＳＳＨ活動の学校の中での位置づけをどのように置くのかが重要である。	・検証の妥当性や再現性においては確たる保証を得た研究が少ないことが課題である。 ・統計学を使うべきであると意識をしても使い切れていない状況にあるようである。
	１９ スーパーサイエンス部の活動を普及させ、科学に対する興味関心を向上させるとともに、自己実現に向けて主体的に学ぶ態度を育成する。	㊲ SSH事業を多くの生徒が享受できる状況あり、多くの生徒がSSH事業の課外講座に参加できるようにする。 ㊳ 科学の甲子園などの科学コンテストにおいて全国大会に出場する団体が2つ以上である。	A B	A A	A A	ＳＳＨ事業の課外活動では全体としては７２％の参加率を達成することができた。 また、科学の甲子園やディベートコンテストにおいて全国大会出場を果たすことができた。	・科学リテラシー講座の講師の人選がよく、内容も充実いていて、生徒の学習意欲が高められていると感じた。	・定員の８０％の参加率を目指すべく、積極的に魅力を発信していくことが必要である。 ・全国大会へのモチベーションを継続して持たせ、伝統的に全国大会へ進むような雰囲気の醸成を行う。
Ⅶ 読書習慣を形成し、図書館活用の活性化を図っていますか。 （広報渉外部）	２０ 生徒の読書習慣を早期に育成するとともに、図書館利用の活性化と蔵書管理を徹底する。	㊴ 生徒の読書習慣を早期に育成する。 ㊵ 図書館利用の活性化と蔵書管理を徹底する。	A A	B B	B B	読書体験の重要性を各教員間で共有して、生徒に還元する。その一つの方策として『群青』を利用した読書指導を行う。 古い本の廃棄も含め、蔵書の更新を常に意識する。	・新聞を含め活字に親しませることは全ての思考、表現の根幹をなすものなので継続して啓発に努めてほしい。	国語科と協力し、夏期休業中の課題である読書感想文を『群青』掲載の本で書くという取り組みを開始した。 （『群青』大賞）これを来年度以降も継続し、高崎高校の伝統にしてゆく。
	２１ 図書委員会の活動を充実させる。	㊶ 図書委員会の活動が活発である。	A	A	A	インフォメーション等、図書館からの刊行物を充実させ、効果的な広報活動に努める。	・来年は土屋文明生誕と没の周年にあたるので、ＰＲを効果的に進め、母校と連携できたらありがたい。	インフォメーションが『Book Of Days』というタイトルで装いも新たに再スタートしたので、今後更なる充実を図りたい。 新しい試みとして始めたレコード・コンサートり定例化。
	２２ ＳＳＨ課題研究論文の作成を支援する。	㊷ ＳＳＨ関連図書を100冊以上収蔵する。	A	B	A	１年生の課題研究においては学年と連携して取り組むことができた。引き続きSSH部や関連教科との連携を図ってゆきたい。	・文献調査や読書させるには一定の時間を確保することも大切である。	図書館としても自然科学を取り巻く状況に敏感になり、SSH関連の書物の適切なアップデイトを図る。